

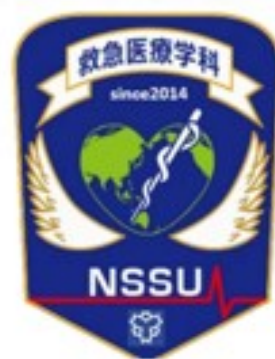
2023年度

救急車同乗実習 実施結果報告書



日本体育大学

保健医療学部 救急医療学科



2023年度

救急車同乗実習 実施結果報告書

日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科

目次

学科長あいさつ	1
救急車同乗実習の概要	2
2023年度の実習概要・事前学習（ガイダンス・事前講義）	5
消防機関における救急車同乗実習	6
学内臨地実習	12
日体大 E D M S	14
救急車同乗実習報告会	15
米国シアトル市の講師による教育指導	18
公安機関・その他の消防機関との連携	20

【電動ストレッチャー搭載の救急車について】

本学の日本体育大学クリニックでは救急車を所有し、保健医療学部救急医療学科の教員（医師、救急救命士）が運用しています。2022年11月、東京都公安委員会から緊急自動車の認定を受け赤色灯が架装され、緊急走行が可能になりました。

救急車は学内における傷病者の搬送、各種スポーツ大会・イベントでの救護活動や応急手当の普及などの社会貢献活動など、幅広く活用しています。2024年1月には、令和6年能登半島地震の医療支援に出動し、被災地の避難所の支援に当たりました。

搭載している電動ストレッチャーは、救急車としては日本で初めて搭載された装備です。ボタン一つで操作を行うことができ、女性や体格の小柄な救急隊員でも操作が容易で、救急活動の省力化に繋がることが期待されています。本学の実習や研究活動にも使用されています。

（詳細は14ページ参照）



学科長挨拶

救急医療学科長 教授 小川 理郎

終息しないコロナ禍で、他学の多くの救急救命士養成大学では、未だに救急車同乗実習が行われていません。本学科はコロナ禍でも実習が中止とならず唯一実施できています。我々、指導教員の学生への教育に対する熱意が、全国消防署の方々にご理解され、ご協力をいただいています。感謝とお礼を申し上げます。

学生の皆さんはこの大変恵まれている真の意味を理解されていますか？救急車同乗実習は、消防の救急車に同乗して単に救急搬送を見学するだけではありません。自分の就職希望である実際の消防署の職場の雰囲気、職員の方々との直接のコミュニケーションから、消防署の役割、署を取り囲む街の様子、地域社会の諸事情と救急医療の実態などの特徴を“実社会”学習します。食堂で一緒にご飯を食べ、出動要請の合間にはしご車を見たり、救助を学んだり、救助訓練に参加すれば、消防職員の疑似体験になり、よりモチベーションが向上するでしょう。隊が現場で重篤者に遭遇した場合、隊長はドクターヘリかドクターカーの要請を判断し、そこでの環境要因を踏まえて、ドッキング前後の円滑な“隊連携”を指揮し、傷病者の観察から医療情報を的確に簡潔に病院サイドに報告し、医師らと共に診療に加わっている姿は生涯忘れないでしょう。学生はこれらの体験から得られたこと、地域の病院前医療の実態や消防組織での職務内容も頭に描いて今後の就職について考えます。病院前での職務を今まで以上に身近に感じて「尊敬される救急救命士になりたい。」自分と真摯に向き合って、また友達と話し合って、さらに勉強にも熱が入ります。わからなかった箇所を指導教員に質問して、実習効果は教員との距離を縮めてくれるだけでなく、活き詰まっていた negative な気持ちも相殺することでしょう。強く自覚を持って就職し、将来献身的に職務を遂行する人材が育ちます。充実した救急車同乗実習体験は学生時代に必須なのです。

同乗実習の未体験者は、ジャンプアップするきっかけを失っただけでなく、残念なことに消防組織に対して従来の形骸的な固定のイメージだけで、救急救命士の資格を取得して、消防署に就職します。社会に出て「学生時代はアルバイトに熱中し、勉強は公務員試験の予備校に通って、国家試験の過去問を繰り返し解いただけで終わってしまった」、入職後の職務の実状を知って「えっ、なんで、こんなことばかりなの？規則、規則ばかりじゃない」「こんなはずじゃなかった！」「知らなかった」、これでは寂しくないでしょうか？

当学科の学生は日本全国から集まってきます。出身地での救急車同乗実習を「ふるさと同乗実習」と名付けて、今年度は新たに 17 消防本部が受け入れてくださり、北海道から九州まで 57 消防本部で実施できました。今回の実習報告会では、学生達は立派でした。スライドも見やすく、経験した貴重な症例の発表だけに留まらず、具体的な地域紹介、特産物や名店、イベント、また各地域での病院前救護に対する MC (Medical Control) にかかわる独自の取り組みも紹介して素晴らしい内容でした。実習先の方々からのご意見もいただき、我々や学生だけでなく、Online を通して聴衆された他の各消防本部の方々からも「他消防署の実際の救急活動内容やその地域事情が学べて大変勉強になった」と好評をいただきました。当学科の同乗実習は、大学と消防、さらに消防間同士のつながりにも少しお役に立てたのでは？と思います。今後とも学生のために宜しく願いいたします。

救急車同乗実習の概要



日本体育大学 救急医療学科の実習ラダー

【救急医療学科の実習概要】

日本体育大学保健医療学部救急医療学科は救急救命士養成課程として2014年に創設されました。当学科では「救急医療」「蘇生医療」「災害医療」を3本柱として、それぞれ国際的な立場で実践活動・指導できる救急救命士の育成をしています。

救急医療の現場に直結した実践的な学びで社会の即戦力になれるよう、救急現場を想定した実践的なシミュレーション訓練や、様々な環境での課外実習、海外から第一線で活躍する救急救命士を招いての講演など、最先端の知識や技術だけでなく人間性も学ぶことのできる数多くの実習を展開しています。中でも「解剖実習」「病院実習」「救急車同乗実習」は当学科の3大実習として、臨床の現場から崇高な医療人の精神を学ぶ貴重な機会です。

救急救命士法第34条の規定に基づき、厚生労働大臣の指定する科目の一つとして救急車同乗実習があります。本実習は、救急救命士国家資格取得のために不可欠であるとともに、学内で学んだ知識・技術の実際を体験することができます。医学的知識や医療技術のみならず、消防機関の執務環境の中で、社会人及び医療人として傷病者や家族、消防職員、医療従事者から信頼される姿を見て、学生が将来の進路を決める契機にもなっています。2020年度以降、学生の故郷や就職希望先での実習として「ふるさと同乗実習」を行っています。夢に向かって勉強に励む学生の姿を故郷の皆様に見ていただくとともに、学生は自分を育ててくれた地域や家族への思いを再認識し、成長を誓って大学に戻ってきます。



日本体育大学 救急医療学科の学内実習

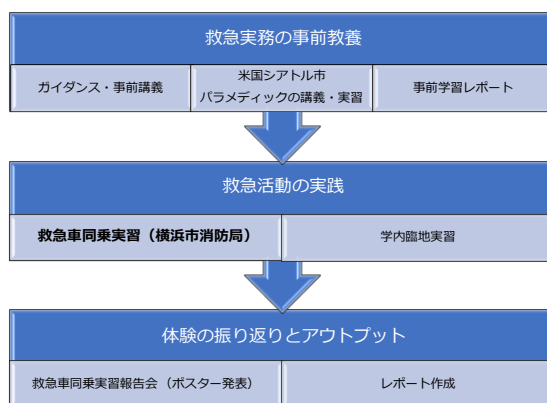


日本体育大学 救急医療学科の野外活動実習

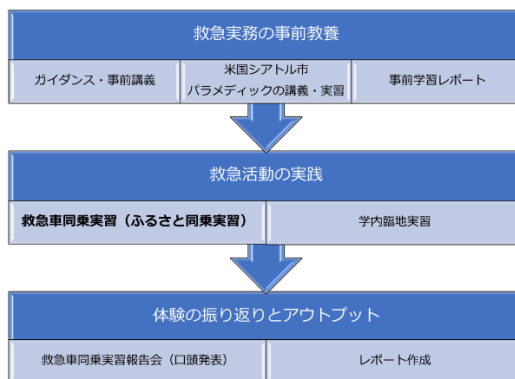
【救急車同乗実習の到達目標】

学内のシミュレーション実習で修得した救急処置技術と医学、医療に係る知識を一連の救急活動として関連づけるため、消防機関を訪問し、消防機関の各部門の業務と役割、消防職員・救急隊員としての責務、消防職員・救急隊員の訓練状況、地元住民との関わりなどを学ぶとともに、救急車に同乗させていただく。救急現場を体験することにより、救急救命士の行う諸活動、消防署における救急活動体制等について理解させている。2年次では、健志台キャンパスを管轄する横浜市消防局での同乗実習を行っている。3年次では、横浜市消防局での実習に加え、「ふるさと同乗実習」を行い、全国の消防本部の取り組みを学んでいる。消防機関での救急車同乗実習の体験を報告会で発表し、全国各地の地域特性などの情報を共有している。また、「学内臨地実習」として、実際の救急車両を走行させ、出場指令から医師引継ぎまでの一連の流れを、2・3年生合同の班で実施し、消防機関での実習で得た知識を実践するアウトプット・トレーニングを実施している。

また、年2回、心停止からの救命率世界一を誇る米国シアトル市からパラメディックや救急隊員（EMT）の講師を招聘し、全ての学生がシミュレーション実習や講義などで直接指導を受けられるようにしている。



救急車同乗実習Ⅰ（2年次）の学修体系



救急車同乗実習Ⅱ（3年次）の学修体系

2023年度の実習概要

【実習の内容】

次の(1)から(5)までのすべての項目に出席し、その内容を実習レポートにまとめて提出し、成績の評価を受けるものとした。

- (1) ガイダンス (学内) 8月4日 (金)
- (2) 消防機関での救急車同乗実習
(学外) と実習後の症例検討会 (学内)
横浜市消防局 : 8月28、29日、9月19、20日
ふるさと同乗実習 (全国各地) 8~1月
- (3) 米国シアトル市の講師による指導 (学内) 6月3~13日、11月7~17日
- (4) 学内臨地実習 (学内) 1月30日~2月2、13日
- (5) 報告会 (学内) 1月20日 (土)

学外での実習を含め、正当な理由のない遅刻・欠席は、再履修とした。実習態度や身だしなみによっては、担当教員や実習先の判断で実習を中止させることとしている。

事前学習 (ガイダンス・事前講義)

1. 全体ガイダンス (担当教員)
実習要項に基づき、実習の心構えや概要の説明のほか、消防機関の実習における遵守事項 (不適切事例の例示)、公務員・消防職員の心得、惨事ストレス対策についての講義を行った。
担当教員より、消防業務についての講義を行い、総務・警防・予防など救急以外の任務があることや交替制勤務の制度などについて学生に説明した。
実習に必要な資器材を配布した。
2. 横浜市消防局ガイダンス
横浜市消防局より講師を招聘し、横浜市消防局の取り組みや同乗実習時の注意事項についての講義を受けた。
3. 実習先の注意事項
救急車同乗実習IIでは、実習先が異なるため、消防本部ごとの注意事項を周知した。

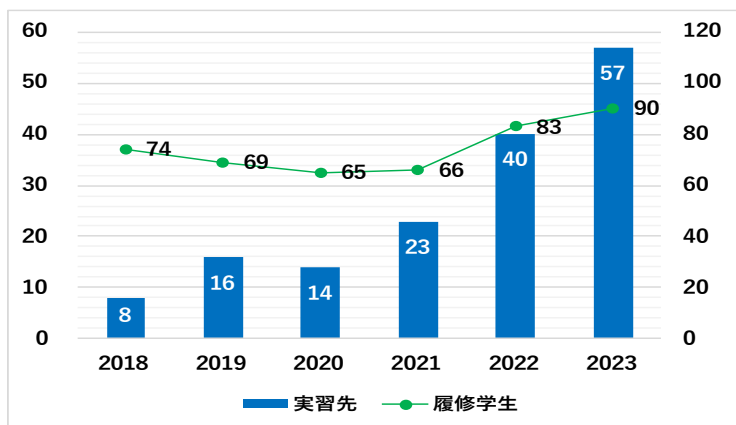


横浜市消防局講師の講義

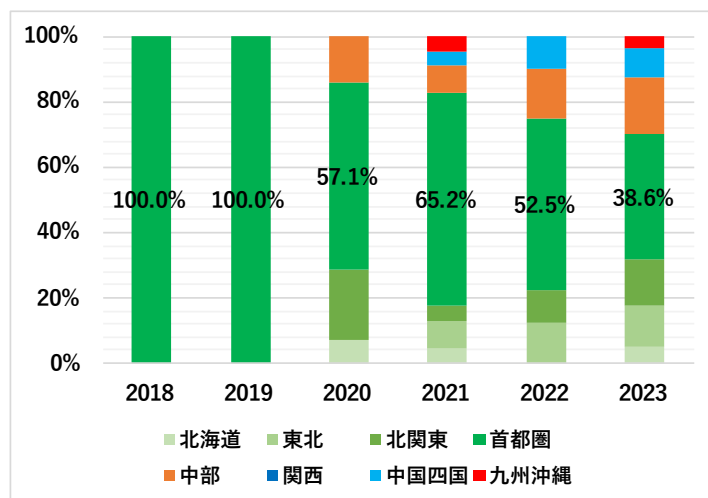
消防機関における救急車同乗実習

1. 実習受け入れ状況

消防機関における救急車同乗実習は、2019年以前は学生の現在の居住地から日帰りで出向可能な首都圏（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）の1都4県の消防機関に限局していたが、2020年度に新型コロナウイルス感染症の流行により実習受け入れ可能な消防機関が激減したことに伴い、救急車同乗実習Ⅱでは学生の故郷や将来の就職希望先を配慮した実習先の確保に努めた。その結果、実習先は全国展開となり、2022年度は実習の受入れの許諾をいただいた消防機関数は2018年度の7.1倍にあたる57消防本部となった（ただし、実習期間中に発生した令和6年能登半島地震の影響で実習に至らなかった本部もある）。さらに、首都圏外の地方消防本部への実習割合は年々増加しており、2023年度は実習先の約6割が首都圏外の消防本部となった。



実習受け入れ先消防本部数の推移



実習受け入れ先消防本部の地域別推移

2. 受け入れ先消防本部一覧（2018年度以降）

2018年度（8消防本部）

川口市消防局・戸田市消防本部・印西地区消防組合・横浜市消防局・川崎市消防局
相模原市消防局・藤沢市消防局・大和市消防本部

2019年度（16消防本部）

川口市消防局・越谷市消防局・戸田市消防本部・埼玉西部消防局・草加八潮消防局
市川市消防局・柏市消防局・印西地区消防組合・稲城市消防本部・横浜市消防局
相模原市消防局・横須賀市消防局・鎌倉市消防本部・藤沢市消防局
小田原市消防本部・大和市消防本部

2020年度（14消防本部）

遠軽地区広域組合・筑西広域市町村圏事務組合・佐野市消防本部
高崎市等広域消防局・上尾市消防本部・松戸市消防局・柏市消防局・
我孫子市消防本部・印西地区消防組合・横須賀市消防局・小田原市消防本部
逗子市消防本部・富山県東部消防組合・知多中部広域事務組合

2021年度（22消防本部）

士別地方消防事務組合・いわき市消防本部・会津若松地方広域市町村圏整備組合
水戸市消防局・熊谷市消防本部・川口市消防局・上尾市消防本部
松戸市消防局・柏市消防局・我孫子市消防本部・袖ヶ浦市消防本部
印西地区消防組合・稲城市消防本部・横須賀市消防局・藤沢市消防局
小田原市消防本部・逗子市消防本部・大和市消防本部・海老名市消防本部
長野市消防局・諏訪広域消防本部・出雲市消防本部・甘木・朝倉消防本部

2022年度（40消防本部）

三沢市消防本部・弘前地区消防事務組合・仙台市消防局・秋田市消防本部
相馬地方広域市町村圏組合・土浦市消防本部・稲敷広域消防本部
ひたちなか・東海広域事務組合・佐野市消防本部・熊谷市消防本部
川口市消防局・越谷市消防局・戸田市消防本部・松戸市消防局・野田市消防本部
柏市消防局・我孫子市消防本部・習志野市消防本部・浦安市消防本部
袖ヶ浦市消防本部・印西地区消防組合・稲城市消防本部・横浜市消防局
相模原市消防局・鎌倉市消防本部・藤沢市消防局・小田原市消防
逗子市消防本部・伊勢原市消防本部・大和市消防本部・七尾鹿島消防本部
静岡市消防局・浜松市消防局・駿東伊豆消防本部・豊橋市消防本部・豊田市消防本部
鳥取県東部広域行政管理組合
総社市消防本部
福山地区消防組合
山口市消防本部



2023年度（57消防本部）

旭川市消防本部・北広島市消防本部・北見地区消防組合・弘前地区消防事務組合
下北地域広域行政事務組合・八戸地域広域市町村圏事務組合
会津若松地方広域市町村圏整備組合・いわき市消防本部
白河地方広域市町村圏消防本部・相馬地方広域市町村圏組合
稲敷広域消防本部・取手市消防本部・水戸市消防局・足利市消防本部
宇都宮市消防局・栃木市消防本部・那須地区消防組合
多野藤岡広域市町村圏振興整備組合・春日部市消防本部・川口市消防局
越谷市消防局・秩父消防本部・戸田市消防本部・比企広域消防本部
印西地区消防組合・浦安市消防本部・市川市消防局・柏市消防局
匝瑳市横芝光町消防組合・千葉市消防局・長生郡市広域市町村圏組合
稲城市消防本部・小田原市消防本部・鎌倉市消防本部・相模原市消防局
茅ヶ崎市消防本部・伊勢原市消防本部・藤沢市消防局・横須賀市消防局
横浜市消防局・上越地域消防事務組合・富山県東部消防組合
富士五湖広域行政事務組合・飯田広域消防本部・諏訪広域消防本部・静岡市消防局
駿東伊豆消防本部・浜松市消防局・富士宮市消防本部・豊橋市消防本部
鳥取県東部広域行政管理組合・岩国地区消防組合・山口市消防本部・高松市消防局
松山市消防局・鹿児島市消防局・東部消防組合



実習受け入れ先消防本部の地域分布と実習の様子

(第6回日本体育大学救命蘇生研究会「ふるさと同乗実習が学生の進路決定に及ぼす効果」救急医療学科・大竹涼馬学生発表資料より引用)

救急車同乗実習の全国展開は、学生の出身地や就職を検討している地域で実施しているため、「ふるさと同乗実習」として学生の進路にも直結している。学生のインタビューにより、救急車同乗実習が進路選択の決め手となったことが明らかになり、その成果について、学生が第6回日本体育大学救命蘇生研究会で発表した。

実習を受け入れていただいた各消防本部の皆様に、心から感謝申し上げます。

3. 横浜市消防局での救急車同乗実習

救急車同乗実習Ⅰ履修者 68 名、救急車同乗実習Ⅱ履修者 19 名が 18 消防署で 1 人 1 日の実習を行った。ガイダンスでは、横浜市消防局員の講義を受けた。

【実習受け入れ先消防署】

鶴見消防署・神奈川消防署・西消防署・中消防署・南消防署・港南消防署・保土谷消防署・旭消防署・磯子消防署・金沢消防署・港北消防署・緑消防署・青葉消防署・都筑消防署・戸塚消防署・栄消防署・泉消防署・瀬谷消防署

【事前課題】

学生は 1 週間前からの体温と健康状況、行動を記録し、実習先に提出を求められた場合も即応できるよう準備を整えた。

学生は貴重な実習機会を大切にし、最大限の学びを得るため、実習先消防署の概要と地域特性を事前に調査し、担当教員の確認を受けて実習に備えた。担当教員は学生に助言を行い、必要資器材（持ち物）や集合時間・場所を確認するなど不備が無いように徹底した。

【惨事ストレス対策】

救急現場に臨場することは、救急活動に慣れていない学生にとって惨事ストレスを引き起こす可能性もあることから、当学科では教員によるメンタルサポートを実施している。実習後は担当教員から声掛けを行い異常の有無を確認し、必要に応じデフュージングを行った。実習要項に「惨事ストレスによる PTSD 予防チェックリスト（作成：消防職員の現場活動に係るストレス対策研究会）を掲載し、学生に惨事ストレスの心理的影響の有無を確認した。学生は「心肺停止状態の傷病者を見た」など、自らの経験とその時の心情を現場経験豊富な教員に吐露することもあり、デブリーフィングの施行が惨事ストレスの予防につながっている。

【事後課題】

実習後、学生は Microsoft Teams で配信された事後課題に回答し、出動件数や搬送人員、観察・処置件数や惨事ストレスの有無などを教員に報告した。また、報告会に向けて消防署単位でスライドを作成し、振り返りと情報共有を行った。スライドの構成には、① 背景（地域について、消防署について、地域の名所や特産品など PR ポイントも含める）② 目的（各学生の到達目標など）③ 方法（実習日、実習形態など）④ 結果（出動件数、程度別など）を含めるものとし、体験のアウトプット・トレーニングの一環として、教員が指導を行った。

発表スライドの一例（横浜市消防局西消防署での実習学生作成）

背景①（西区について）

- 市の中央に位置し、帷子川のたけによる沖積層からなる中央部の低地と、なだらかな丘陵地からなっている。
- 面積が6.98㎢と18区で一番小さいが、県下最大の商業地である「横浜駅」や、新しいまちづくりが進む「みなとみらい21地区」、開港以来の歴史を伝える「野毛山」、下町情緒を残した「浅間町」など、特徴ある地域が多くある。



https://kikajapan.net/yokohamashi/

背景②（実習先消防署について）

西消防署は、本署と浅間町消防出張所、坂之谷消防出張所に組織されており、144名（2022年4月現在）の職員とポンプ車、水筒車、救助工作車及びはしご車など17台の消防車両で、区内の安全・安心を24時間体制で守っている。救急車は3台あり、第一・第二救急車は24時間、第三救急車は日勤で活動している。



- 西指揮隊
- 西はしご消防隊
- 西泡原液搬送隊
- 西第一救急隊
- 西第一消防隊
- 西二消防隊
- 西消防活動二輪隊

※ 横浜市消防局ホームページから引用

目的

- 救急車に乗務する救急救命士が現場でどのように行動しているのか、現場活動や症例を見学させていただきながら理解を深める。また、自分が隊員の一人として活動しているとイメージしながら実習に臨む。（川口春門）
- 地域住民だけでなく、西区を訪れる観光客や外国人など、年齢や性別に関係なく対応する救急救命士の姿を見ながら、傷病者に寄り添ったコミュニケーションの取り方を学びたい。（佐野ほのか）
- 出動指令を受けてから病院収容するまでの一連の流れなど、大学内の実習では体験することのできないプロの活動を学びたい。また、傷病者の訴えに対するバイタルサインの測定方法や問診のテクニックを注目してみる。（中島大輔）

方法（一日の実習の流れ）

時間	実習項目	時間	実習項目
8:00	実習先到着	13:08	出場④
8:10	実習開始の挨拶（署長）	13:48	待機
8:30	実習開始の挨拶（全体）	14:06	出場⑤
9:00	大交代	14:50	待機
9:20	出場①	15:30	指令室見学
9:29	待機	16:00	実習先からの評価
9:43	出場②	16:30	実習終了の挨拶（署長）
10:10	待機	16:45	終了
10:32	出場③		
11:01	帰署		

結果

	川口春門 (8月28日)	佐野ほのか (9月19日)	中島大輔 (9月19日)
総出動件数	3件	3件	7件
軽症	3件	2件	2件
中等症	0件	0件	2件
重症	0件	0件	0件
死亡	0件	0件	0件
不搬送	0件	1件	3件

症例報告

- 2歳女児
- 2日前の頃から発熱（39.0°）しており、座薬を使用して37.0℃まで解熱した。昨日40℃まで発熱したため、医療機関を受診。インフルエンザとCOVID-19は陰性であった。自宅にて様子を見ていたが、本日、ぐったりしているため家族が救急要請した。

	収容時	搬送中
JCS	I 桁	I 桁
GCS	E4 V3 M6	E4 V3 M6
呼吸*	あり	あり
脈拍	185回/分	185回/分
血圧	116/96mmHg	116/96mmHg
SpO2	97%	97%
体温	40.5℃	40.5℃
瞳孔*	不明	不明
心臓回	測定せず	測定せず

※ 呼吸回数・瞳孔の評価までは記録できなかった

- SAMPLE
 - S：発熱
 - A：なし
 - M：なし
 - P：なし
 - L：本日12時
 - E：上記のとおり
- 救急隊の対応
 - 呼吸状態が持続するため、母親にあやしてもらいながら観察を継続した。
 - 区内二次医療機関に搬送
 - 初診時傷病名：発熱（軽症）

考察

- 現場出動を体験できたことで、実際の傷病者への接し方や各隊員の動き方を学ぶことができた。出動1例ごとにフィードバックをいただけたことが自分の自信にもなった。（川口春門）
- 救命できない現場があることを実習で知ること、現場では何もできない無力差を感じた。しかし、現実をしっかりと受け止めることで、救える命を確実に救える救急救命士になりたいと強く感じた。（佐野ほのか）
- 現場や救急車内など、状況に応じて観察場所を変えていたことは同乗実習だからこそ学ぶことができ、救急活動のリアルを知ることができた。
- 小児の症例では、処方する薬の量が異なるため、現場活動で身長や体重などの体格について聞いていた。今後の実習や救急活動などで活かしてゆきたい。（中島大輔）

結語

- 出動指令から病院収容までの一連の活動を実習で体験し、学ぶことができた。
- 現場での観察項目と救急車内での観察項目を、傷病者の状態によって分けて対応する応用力を学ぶことができた。
- 新型コロナウイルス感染症も5類へ移行となったが、発熱や感染症疑いの傷病者に対する徹底的な感染対策は続いている。同乗実習をとおして、感染対策の重要性を改めて学ぶことができた。

YOKOHAMA FIRE BUREAU

4. ふるさと同乗実習

救急車同乗実習Ⅱ履修者89名が全国57消防本部で1人3日間（当直勤務の場合は1当直1日勤）の実習を行った。実習先は、前年度に学生の希望調査を行い、学生の希望に基づき各消防本部に実習を依頼した。特に、故郷での実習を希望する学生については、夏季及び冬季休暇期間中に帰省と合わせて実施できるよう配慮した。事前課題、惨事ストレス対策、事後課題は横浜市消防局での実習と同様に実施した。



実習の様子(千葉市消防局ガイダンス)

学生の感想

- 地元の方言を聞いたり、なじみのある病院などに行ったりして、地域の雰囲気を感じることが出来た。
- 地元での就職を希望していたので、いつか救急服を着たいと思い、モチベーションが上がった。
- 実習を通じて、地域に貢献したいという気持ちが高まった。就職試験に向けて自信がついた。
- 大学では得ることのできない体験が出来た。観察や処置だけでなく、常に傷病者や家族に気配りをして声を掛けている救急隊の姿を見て、接遇の重要性が分かった。
- 新型コロナウイルスやインフルエンザの感染防止対策を間近に見ることが出来た。
- それぞれの学生の実習先の地域のことがわかり、医療体制だけでなく、地域の特産や銘品などの情報も知ることが出来た。
- 救急車の同乗だけでなく、消防署での待機中は、訓練に参加させてもらったり、消防車両や施設を見学させていただいた。自分も消防に入ることが出来たら、実習生に親切にしたい。
- 2年次に横浜市消防局の都会の救急活動を体験し、3年次に地方の救急活動を見ることが出来て、同じところや違いがわかってよかった。
- 軽症者の要請が多いことや、高齢者の搬送件数が多いことなど、大学で話に聞いていたが、社会的な課題を実感した。
- 教科書で学んだ症例を実際に見て、症状や観察・処置の流れが理解できた。

学内臨地実習

学内臨地実習は、消防機関における救急車同乗実習の事後に救急活動の一連の流れを実践するアウトプットのトレーニングとして、本学の施設及び車両を使用して行われた。学内のゲストハウス（一戸建ての日本家屋）やゲストルーム（旧・横浜寮）を現場に見立て、救急車を走行させ臨床現場に近い状態で学習成果を確認したほか、傷病者や家族関係者への接遇、傷病者搬送、他機関との連携などを含めた総合的な活動が行われた。また、今年度の取り組みとして、「救急車同乗実習Ⅰ」「救急車同乗実習Ⅱ」の履修者が混在する班を編成し、異なる学年で救急隊編成や想定付与を行うこととした。

(1) 臨地実習の流れ

- (ア) 学生は1班6名程度の小グループとし、各班には救急救命専門指導教員を指導者として配置する。
- (イ) 実施隊と想定付与を担当する班に分かれ、実施隊は救急車内で待機する。想定付与班は指令本部・傷病者・家族・関係者等の任務を分担し、出動指令を救急隊へ無線で伝達する。
- (ウ) 出動指令を受けた救急隊の学生は、資器材を携行し活動現場へ向かう。出動途上は、指令本部との情報共有や消防隊や警察官の応援要請を行う。
- (エ) 現場で学生は、初期評価、継続観察に基づき救急処置（3年生は特定行為も含む）を行う。学生は、特定行為を行うために医師への指示要請や傷病者の収容を依頼する病院連絡は実際に無線機を使用して行う。搬送中は、救急車内で病院到着まで傷病者の継続的な観察などの車内活動を行う。
- (オ) 病院到着後は、傷病者を診察室まで搬送し、現場の状況、観察結果と処置、傷病者の情報を教員へ伝達することで医師引継ぎとなり活動が終了となる。
- (カ) 救急活動後は、実施隊と想定付与班が合同で検討を行い、実施した想定についての症例検討を学生相互に行う。
- (キ) 実施隊の学生は、活動内容を振り返り、実際の活動や検討事項についてレポートにまとめる。

(2) 実施結果

各学生が6想定（実施隊3例、想定付与3例）を実施した。学生からは、「普段のシミュレーションで習った手技ができなかった」「実際に傷病者を搬送し、命の重みが分かった」「接遇の重要性を学んだ。家族にどのように説明して良いかわからなかった」「検討会で、実施した想定について意見交換を行い、他の学生の判断や行動が自分に気付かなかった点があり、勉強になった」「想定場所が実習室ではないだけで緊張した」との感想があったほか、「3年生の先輩は動きが早くて判断の根拠もしっかりして、すごいと思った」「2年生に処置のやり方を教えながら指示を出すのは大変だった」など、学年間の気づきも見られた。

学内臨地実習では、救急現場で頻度の高いものや高度な救急救命処置が必要な症例を救急救命専門指導教員が作成した。検討会は学生が進行し、活発な意見が上がった。



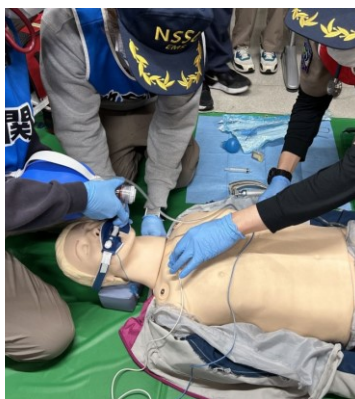
ゲストハウスからの搬送



救急車内での活動



全体の講評



ゲストハウスでの活動



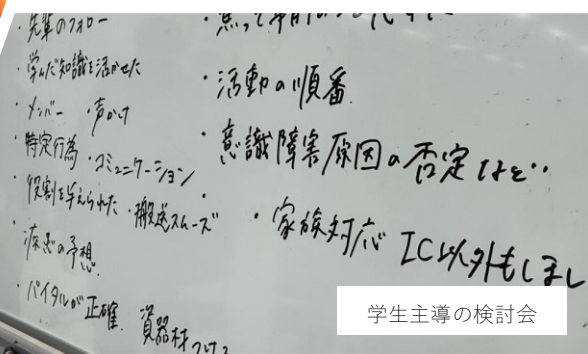
特定行為の実施



ゲストルームでの活動



心肺蘇生



学生主導の検討会

日体大 EDMS (Emergency and Disaster Medical Services)


本学では、2018年11月には大学として初となる救急車を新たに導入した。市販車ベースとしては初となる「電動ストレッチャー」を搭載し、緊急走行も可能である。

日体大EDMS

- NITTAIDAI Emergency and Disaster Medical Services -

日体大EDMSとは？ 緊急時・災害時における救護・医療支援活動を展開するチームとして、学科開設時（2014年）から構想を進めてきたもの。以下の4分野を柱とする。

スポーツイベントなどにおける救護・医療支援	災害時救護・医療支援活動を通じた社会貢献
各種スポーツイベントにおいて、心肺停止や熱中症などの傷病者に対応できる救護・医療支援体制を構築し、安全・安心な競技運営を支えつつ、地域社会に貢献する。	自治体や医療機関と連携し、大規模災害発生時や感染症流行時の救護・医療支援活動を行うことで、大学としての地域貢献・社会貢献を果たす。
研究 -Research-	教育 -Education-
救護スタッフ・資器材の配置や運用体制などの分析・検証、大規模災害時の医療支援活動、病院間搬送、後方支援など、救急災害医療学分野の研究をとおりて社会貢献を果たす。	救急医療学科の「実地研修」として、学生が医師・救急救命士と共に活動することで、学生の臨床能力や災害ロジスティクス能力の向上を図る。



- Ambulance -

所属: 日本体育大学クリニック (東京・世田谷キャンパス内に開設)

運用: 保健医療学部救急医療学科 (医師・救急救命士)

- 東京都公安委員会より緊急車両として認可(2022年)。
- ドクターカー(患者搬送機能付き)、災害支援車両としても運用。
- 電動ストレッチャー搭載車両(スライカー社製)としては、日本第1号。

【Special Equipment ①】
Power-PRO™ 電動ストレッチャー

モーターと油圧の両方を活用した電動油圧昇降システムを採用。ボタン操作のみで無段階に昇降位置が設定可能(36~105cm)であり、最適な位置で救命処置が可能。最大318kgまでの耐荷重も持ち、堅牢性にも優れる。



Specifications

形式: CBF-TRH226K改
ベース: トヨタ ハイエース
駆動: 4WD
全長: 5,570mm
全幅: 1,900mm
全高: 2,580mm
総重量: 3,290kg
定員: 6名
配置: 2018年11月
機装: 光伸株式会社



【Special Equipment ②】
リチウムイオンバッテリー

搭載する医療機器・通信機器等の動力源のほか、様々な電気機器に対応する。車外4か所にアウトレットも配置し、災害時には電源車として稼働することも可能。

- Activity Results -

2023年度 運用状況
(2024年2月1日現在)



 横浜マラソン2023 (救護)	 オープンキャンパス (広報)	 令和6年能登半島地震 (災害支援)
 横浜市大規模テロ災害対策訓練 (訓練)	 ほうさいこくたい2023 (広報)	 令和6年能登半島地震 (災害支援)

救急車同乗実習報告会

消防機関で実施した体験の共有とアウトプットを目的として、毎年「救急車同乗実習報告会」を行っている。体験した症例の報告のほか、地域の紹介や自分の意見、活動から得た教訓について述べた。発表は消防本部（消防署）ごとのグループで行った。スライドは学生が作成した後に教員がチェックを行い、個人情報の保護を徹底した。発表は内容だけでなく、発表態度（服装・態度・積極的な質問）も重要であることを意識させた。実習でお世話になった消防機関からも遠隔・対面で聴講してもらい、適宜、講評をいただいた。



**令和5(2023)年度
救急車同乗実習報告会**
The Report Meeting of Practical Training on an Ambulance, 2023

救急車同乗実習Ⅰ	横浜市消防局実習報告（ポスター発表）	
救急車同乗実習Ⅱ	消防機関での実習報告（口演発表）	

プログラム ※ 進行状況により変動する場合があります。

8時45分～9時30分	9時40分～10時25分	ポスター掲示
福島県 会津若松地方消防本部 北海道 旭川市消防本部 栃木県 足利市消防本部 長野県 飯田広域消防本部 東京都 稲城市消防本部 茨城県 稲敷広域消防本部	福島県 いわき市消防本部 山口県 岩田地区消防組合 千葉県 千葉市消防本部 栃木県 宇都宮市消防局 千葉県 浦安市消防本部 愛媛県 宇和島地区広域消防本部	横浜市消防局 (18消防署) 青葉消防署 旭消防署 泉消防署 磯子消防署
10時35分～11時20分	11時30分～12時15分	磯子消防署 神奈川消防署
沖縄県 沖縄県東部消防組合 神奈川県 小田原市消防本部 鹿児島県 鹿児島市消防局 千葉県 柏市消防局 埼玉県 春日部市消防本部 神奈川県 鎌倉市消防本部	埼玉県 川口市消防局 北海道 北広島市消防本部 北海道 北見地区消防組合 埼玉県 越谷市消防局 青森県 五所川原地区消防事務組合 神奈川県 相模原市消防局	金沢消防署 港南消防署 港北消防署 栄消防署 瀬谷消防署
13時10分～13時55分	14時05分～14時50分	都筑消防署 鶴見消防署
静岡県 静岡市消防局 青森県 下北地域広域消防本部 新潟県 上越地域消防事務組合 福島県 白河広域消防本部 長野県 諏訪広域消防本部 静岡県 駿東伊豆消防本部	千葉県 印旛市横芝光町消防組合 福島県 相馬地方広域消防本部 香川県 高松市消防局 群馬県 多野藤岡広域消防本部 神奈川県 茅ヶ崎市消防本部 埼玉県 秩父消防本部	戸塚消防署 中消防署 西消防署 保土ヶ谷消防署 緑消防署 南消防署
15時00分～15時45分	15時55分～16時45分	
千葉県 千葉市消防局 千葉県 長生郡市広域消防本部 埼玉県 戸田市消防本部 栃木県 栃木市消防本部 宮城県 宮取東部広域消防局 富山県 富山県東部消防組合	愛知県 豊橋市消防本部 茨城県 取手市消防本部 栃木県 那須地区消防組合 青森県 八戸地域広域消防本部 静岡県 浜松市消防局 埼玉県 比企広域消防本部 山梨県 富士五湖消防本部	
16時55分～17時45分	口演発表について	
神奈川県 藤沢市消防局 静岡県 富士宮市消防本部 茨城県 水戸市消防局 山口県 山口市消防本部 神奈川県 大和市消防本部 神奈川県 横浜買市消防局 神奈川県 横浜市消防局	・1消防機関あたり 発表5分、質疑等2分	

開催日 令和6年1月20日(土)

会場 日本体育大学 横浜・健志台キャンパス
百年記念館4階 1402教室
(神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1)

開催形式 対面+WEB開催
(対面参加の皆さまには、参加証を発行いたします)

参加申込 令和6年1月18日(木)まで
※ 学生の聴講希望登録：1月17日(水)まで

参加登録フォーム (消防機関向け) 

令和5(2023)年度 救急車同乗実習報告会
保健医療学部 救急医療学科 (担当：中澤真弓、小倉勝弘)

TEL : 045-507-8538
E-mail : katsuhiroogura.emt@nittai.ac.jp
https://nittai-ems.com/







消防本部指導者からの講評



ポスターの掲示




質疑応答



学生の発表

背景① 北広島市について



- ・人口：57,566人(世帯数：28,091世帯)
- ・面積：119.05km²
- ・明治17年に広島県人25戸103人が集団移住し、開拓を始めたのが、北広島市の始まり。
- ・名産品に「赤毛」がある。
- ・クラーク博士が『Boys be ambitious』の名言を残した地。
- ・昨年3月には、北海道日本ハムファイターズの本拠地、**エスコンフィールド北海道**が開業し、注目を集めている。

背景① (実習先地域について)

1. 山口県の県庁所在地、中枢中核市令都市に指定されている。
2. 人口約20万人。
3. 山口県のほぼ中央に位置し、市域は南北に長く、南端は瀬戸内海に面し、北端は島根県と接する。
4. アメリカの有力紙、ニューヨークタイムズが「2024年に行くべき場所52か所」を発表し、日本からは山口市が3位に運出された。



赤色が山口市



ニューヨークタイムズの記事

I 背景①

1) 福島県白河市の地域の特徴


- ・総人口は57,257人(令和5年11月現在)
- ・福島県中通り南部に位置し、古代に「白河の関」が置かれて以来、みちのくの玄関口として知られる。






I.背景① (実習先地域について)


- 1) 宇都宮市は、栃木県の中央部に位置している。
- 2) 人口は約51万人である。
- 3) **宇都宮餃子**が食文化として定着している。
- 4) プロバスケットボールチームの「**宇都宮ブレイクス**」には、元NBA選手の田臥勇太や日本代表の比江島慎が所属している。
- 5) 観光名所には、宇都宮城、宇都宮城址公園、二荒山神社がある。



宇都宮餃子



比江島選手



田臥選手

実習先地域の紹介の一例 (北広島市・山口市・白河市・宇都宮市)

故郷の紹介は、消防・医療体制のみならず、人口や面積、特産・名所・銘品などに及び、聴講者に興味・関心を持たせるとともに、地域のイメージを具体的に想像できるようにしている。

米国シアトル市の講師による教育指導

救急車同乗実習の一環として、救急救命士としての視野を広げるため、6月と11月に、米国シアトル市から講師を招聘し指導を受けている。本学では、2年次選択科目「国際救急システム実習」で、世界の救命率を誇る米国シアトル市を含むワシントン州キング郡で救急車同乗実習を体験することが出来る。しかし、選択科目の特性上、海外渡航は履修者のみが参加するため、世界的指導者の講師を招聘し、米国に行くことが出来ない学生にも、世界最先端の救急医療教育の機会を提供している。

6月は、シアトル市で心肺蘇生法の普及啓発を担う部署の「MEDIC II」のインストラクター資格を持ち、消防署勤務と並行して普及活動を行っている救急隊員の講師からバイスタンダー育成の重要性について学んだ。また、パラメディックの講師からメディカルラリーやシミュレーション実習の指導を受けた。11月は2名のパラメディックの講師から、特定行為を中心としたシミュレーション実習や生体穿刺について指導を受けた。



1. 学習目標（G I O : General Instructional Objective）

- (1) 米国シアトル市が救命率世界一に至った歴史的背景を学習する。
- (2) 市民への心肺蘇生法普及の重要性と普及要領を学習する。
- (3) シアトル市で行われている緊急度判断や質の高い心肺蘇生法を学習する。
- (4) 外国人とのコミュニケーションにより、救急活動における外国人対応要領や、文化・宗教・民族を超えた国際交流について学習する。

2. 学習行動目標（S B O s : Specific Behavioral Objectives）

- (1) 米国シアトル市が救命率世界一になった背景を知る。
- (2) 市民への心肺蘇生法普及の普及が救命の連鎖に重要であることを理解する。
- (3) 緊急度判断（Sick or Not Sick）の重要性を理解する。
- (4) 質の高い心肺蘇生法（High-performance CPR）の重要性を理解する。
- (5) 日米の救急救命士の処置内容の違いを理解する。
- (6) 救急活動において、簡単な英語またはジェスチャー等で外国人とコミュニケーションをとることができる。

【2023年度講師】

Boylan Christopher Joseph（スキップ）：Redmond Fire Department（レッドモンド消防）

Bogans Gregory Eugene（グレッグ）：Seattle Fire Department（シアトル消防）

Mike Larson（マイク）：Seattle Fire Department（シアトル消防）

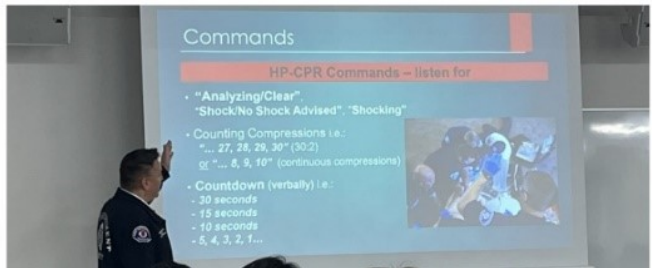
Mike Farrell（マイキー）：King county Medic One（キング郡メディックワン）



パラメディックの講義



パラメディックの実習



メディカルラリー



心肺蘇生法講習会

公安機関・その他の消防機関との連携

【海上保安庁・自衛隊との連携】

本学では、消防機関以外の公安機関とも相互の連携体制を構築している。2020年に海上保安庁第三管区海上保安本部、2021年に自衛隊神奈川地方協力本部と包括連携協定を締結した。学生は、消防機関での救急活動だけではなく、国難災害や海難救助における救急活動についても、見識を深める機会を得ている。1年次の救助救命医療学演習では、海上保安庁施設・自衛隊施設を訪問し、海上保安官や自衛官から直接指導を受けている。



救助救命医療学演習（1年次必修科目）

【消防機関との連携】

救急車同乗実習に限らず、本学は全国の消防機関と関係を構築し連携を図っている。野外活動実習Ⅲ（河川）では、山口県消防学校・山口市消防本部の協力により、履修学生は消防技術と水難救助技術を学んだ。野外活動実習Ⅳ（山岳）では、実習場所を福島県内とし、双葉地方広域市町村圏組合消防本部・喜多方地方広域市町村圏組合消防本部の協力のもと、東日本大震災被災地の視察や体験の伝承、山岳救助技術の体験を実施した。その他にも、東京消防庁実科査閲視察、横浜市消防局の大規模テロ訓練や鎌倉市消防本部多数傷病者訓練の傷病者役での参加、我孫子市消防本部の学生職場体験等の機会をいただいた。



全国の消防本部との連携



2023年度 救急車同乗実習 実施結果報告書 (2024年3月発行)

発行 日本体育大学 救急医療学科

所在 〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 1221-1 日本体育大学 保健医療学部救急医療学科